

2 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善〔小学校国語〕

〔分析〕

- 国語 A の領域別では、「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国とほぼ同様であり、評価の観点別では、「話す・聞く能力」「言語についての知識・理解・技能」で全国とほぼ同様です。
- 国語 B の領域別では、全ての領域、評価の観点別では、「国語への関心・意欲・態度」で全国を大きく下回っています。
- 国語 A・B の問題形式別では、「記述式」で全国を大きく下回っています。

〔成果と課題〕

- 国語の基礎的な知識・技能が概ね定着しています。
- 主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことに課題が見られます。
- 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめたり、複数の資料の内容を関係付けて理解したり、表現したりすることに課題が見られます。

〔改善の方向性〕

課題の解決に向けて、例えば次のような指導を充実させることが大切です。

【話すこと・聞くこと】

- ◇ 相手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる指導
(例) ・自分に伝えたいことは何か、共に考えたいことは何かなど、話の内容を十分に聞き取る活動
・相手と自分の意見を比べて考えを述べるために、どこが共通するのか、どのような点が違うのかなどを、具体的に明示しながらまとめて話す活動

【書くこと】

- ◇ 構成の効果を考えて、物語を創作する指導
(例) ・これまでに読んできた物語を構成という観点で読み返し、それぞれの特徴とその効果を整理するなど、読むことの学習との関連を図る活動
- ◇ 目的や意図に応じ、複数の資料から適切な内容を取り上げて、詳しく書く指導
(例) ・得られた情報の中から目的や意図に応じて適切な内容を選択したり、関係付けて捉えたりする活動
・情報の何をどのように取り上げて、詳しく書けば効果的であるかを整理して書く活動

【読むこと】

- ◆ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む指導
(例) ・目的に応じて、複数の本や文章を読み重ねたり、読み比べたりするなど、効果的な読み方を選択して活用する活動

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ◇ 文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く指導
(例) ・児童が自ら主語と述語が照応していないことに気付き、正しく書く必要性を実感できるよう、他者に向けて話したり、目的や相手を明確にした実用的な文章を書いたりする活動
- ◇ 相手や場面に応じて適切に敬語を使う指導
(例) ・日常生活の具体的な場面と関連させ、いつ、どのようなときに、誰に対してどのような敬語を使うことが適切であるかを考えるなど、児童が自覚的に敬語を使用する活動



◆の改善の方向性に関する事例を紹介しています。 P4～P5

2 主体的・対話的で深い学びの視点からの 授業改善〔中学校国語〕

〔分析〕

- 国語Aの領域別では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国を上回っており、評価の観点別では、「話す・聞く能力」「書く能力」「言語についての知識・理解・技能」で全国を上回っています。
- 国語Bの領域別では、「話すこと・聞くこと」で全国を上回っていますが、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国を大きく下回っています。また、評価の観点別では、「話す・聞く能力」で全国を上回っていますが、「言語についての知識・理解・技能」で全国を大きく下回っています。
- 国語A・Bの問題形式別では、「選択式」「短答式」で全国を上回っています。

〔成果と課題〕

- 国語の基礎的な知識・技能が定着しています。
- 目的に応じて文章を読む際に、情報を整理して内容を的確に捉えることに課題が見られます。
- 文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くことに課題が見られます。

〔改善の方向性〕

課題の解決に向けて、例えば次のような指導を充実させることが大切です。

【話すこと・聞くこと】

◇ 目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりすることができるようにする指導

- (例) ・話の全体として伝えたいことを明確にし、それを分かりやすく伝えるために各部分をどのように組み立てるかを考えて話す活動
- ・状況に応じて話の途中で質問したり、話が終わった時点で質問したりするなど、相手が言いたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりする活動

【書くこと】

◇ 目的や意図に応じて相手に分かりやすく書くことができるようにする指導

- (例) ・分かりやすい説明や具体例を加えたり、表現しようとする内容にふさわしい語句を選んで描写を工夫したりする活動

【読むこと】

◆ 目的に応じて読み、内容を的確に捉えることができるようにする指導

- (例) ・目的や意図に応じて、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて内容を把握する活動

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

◇ 語感を磨き語彙を豊かにすることができるようにする指導

- (例) ・それぞれの語句が話や文章の中でどのように使用されているか、自分が表現するときにどのように活用すればよいかについて辞書等を用いながら考えたり、学習してきた多様な語句を意識的に使用したりする活動



◆の改善の方向性に関する事例を紹介しています。 P6～P7

2 授業改善例〔小学校国語〕

平成30年度全国学力・学習状況調査B問題から見られた課題

小学校
国語B
3ー

【出題の趣旨】
目的に応じて、複数の
本や文章などを選んで
読むことができる。

		北海道	全国	差
山下さんは、どのようなことが知りたくて【自伝「旅人」の一部】を読んだのか、その説明として適切なものを選択する。	正答率	47.2	49.4	-2.2
	無解答率	3.2	3.2	0.0

〈主な学習活動〉

〈指導上の留意点〉

学習過程

第一次

伝記を読んで自分の生き方について考える

第二次

第三次

① 伝記を読む意義や目的を共有するとともに、学習過程を考え、学習の見直しをもつ。

②③ 共通学習材を読み、その人物の「生き方」について自分と関係付けて考える。

④ 自分の生き方についての考えをもつ。

⑤⑥ 選んだ人物の伝記を読み、その人物の「生き方」について自分と関係付けて考える。

⑦ 自分の生き方についての考えをまとめる。

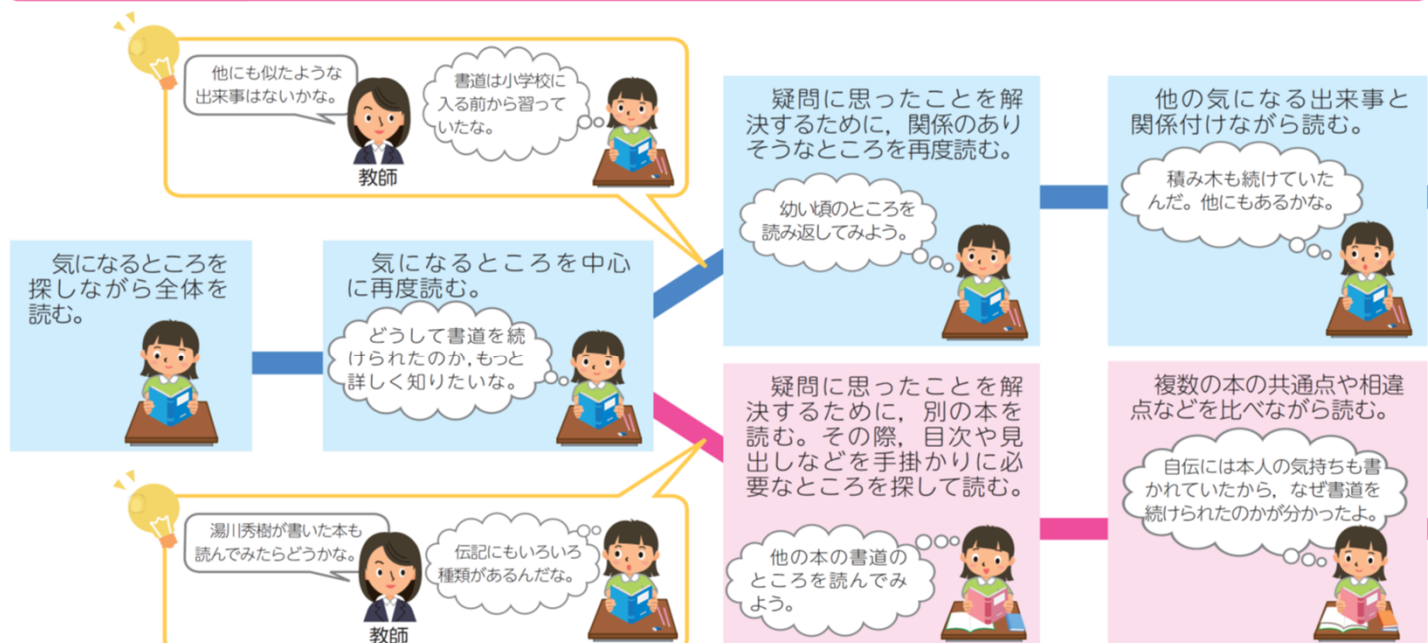
■ 伝記を読み、その伝記で描かれている人物の「生き方」について「最も心がひかれた生き方とその理由」と「自分の生き方について考えたこと」の教師の提示を基に、学習過程を考え、学習の見直しをもつことができるようにする。
■ 大切にしている行動や考え方を出し合いながら、生き方について考えることの意義や目的を共有し、伝記に描かれた人物の「生き方」を通して、自分の生き方について考えるという単元を通したためあてをもつことができるようにする。

■ 伝記を読み、描かれている人物の行動や考え方を中心に、疑問に思ったことや感動したことなどをまとめ、その後の交流に生かすことができるようにする。
■ 疑問に思ったことや感動したことを中心にグループや全体で交流することを通して、自分の疑問を解決したり、その人物の「生き方」について考えを深めたりすることができるようにする。
■ 伝記に描かれている人物の「最も心がひかれた生き方とその理由」について、グループや全体での交流を通して、自分の生き方についての考えをもつことができるようにする。

■ 自分で人物を選び、共通学習材での学びを生かして伝記を読むことができるようにする。
■ 選んだ人物の行動や考え方を中心に、疑問に思ったことや感動したことなどをまとめ、グループや全体で交流することを通して、自分の疑問を解決したり、その人物の「生き方」について考えを深めたりすることができるようにする。
■ 伝記に描かれている人物の「最も心がひかれた生き方とその理由」について、グループや全体での交流を通して、「自分の生き方について考えたこと」をまとめる。

単元を通して、自分が気になる人物の伝記を読む

第二次・第三次 単元を通して、目的に応じて伝記を読む



伝記を読む際には、書き手が異なるなど、様々なものがあることにも着目し、複数の伝記を比べて読むことで人物の「生き方」をより深く知ることができることを実感できるように指導することが大切です。

ポイント

第二次③／7

グループで交流することを通して、人物の「生き方」について考えを深める



私は、湯川博士はうまくいかなかったり、失敗したりしたことはないのかが気になったよ。湯川博士はずっと成功を積み重ねてきたのかな。



高校の時に数学で合格をもらえなかったって書いてあったよ。でも、この本にはあまり詳しく書かれていないね。



そうなんだ。もっと詳しく知りたいな。別の伝記を読んでみようか。高校のときの出来事なら、そのことが書かれているのは「高校の日々」あたりかな。



湯川博士は自伝も書いているよ。「数学」という言葉を探しながら、ページの最初や段落が変わるところを中心に読んでいこう。

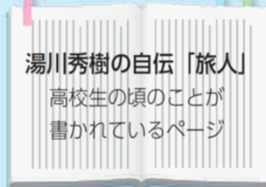
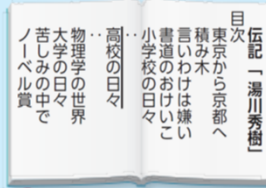
～（疑問を解決するために別の本を読む）～



合格をもらえなかったのは自分の考えたやり方で解いてしまったからなんだね。



湯川博士は「自分のやり方」や「自分の力で」ということを大事にしていたのかもしれないな。他にも似たような出来事はないかな。



ポイント

課題を解決するに当たって、複数の本を比べて読むときには、どのような情報が必要なのかを明確にし、効果的な読み方を選択できるようにすることが大切です。

効果的な読み方としては、次のようなものが考えられます。

- 目次や見出しなどを活用して読む。
- 自分に必要な情報を別の言葉に置き換えて探しながら読む。
- 段落ごとに必要な情報と結び付くような言葉を見付けながら拾い読みをする。

第二次④／7

人物の「生き方」を通して自分の生き方についての考えをもつ



Aさん

「自分の力で、やれるところまでやってみよう」という一文にひかれたよ。布団に入ってから研究のことを考えて続けているなんて、すごくて強い人だね。



Bさん

湯川博士は「挑戦する人」だと思ったよ。数学の難しい問題を解き続けたことや、誰も知らない真実を探ろうと研究に打ち込んでいたことからそう思ったんだ。



Aさん

研究に打ち込んでいた姿が心に残ったのは同じなのに、Bさんとは生き方について考えたことが少し違うね。



Cさん

Aさんは、一輪車の練習をねばり強くがんばっているよね。だから、湯川博士のねばり強さにひかれたのかもしれないね。



Aさん

なるほど。一輪車のように好きなことだけでなく、大変なこともねばり強く最後までやり遂げるようにしたいな。Cさんはどうかな。



Cさん

私は手塚治虫の伝記を選んだのだけれど、あきらめずに漫画を描き続ける姿が心に残ったよ。なぜその姿が心に残ったのか、考えていきたいな。

「最も心がひかれた生き方」のまとめ方には、本問のようにその人物を象徴する一文を選んだり、「～な人」という人物像で表したりするなどの方法があります。

同じ人物の伝記を読んでも、生き方の捉え方には違いがあります。捉え方の違いは児童それぞれの経験などによるものです。叙述を基に、なぜその生き方に最も心がひかれたのかを友達と交流することで、感じ方には違いがあることに気付くことができるようにします。それによって、改めて自分の生き方について意識をしたり、考えをより深めたりすることができるようにします。

共通学習材での学びを生かすことができるようにします。

本授業アイデア例

活用のポイント！

- 様々な伝記を揃え、児童一人一人が興味・関心や読書経験に応じて選書をするような読書環境を整えておくことが大切です。
- 高学年における「A 話すこと・聞くこと」のイの指導事項との関連を図り、伝記を読んで「自分の生き方について考えたこと」などについてスピーチをする活動に重点を置いて指導することも考えられます。

参照▶「平成30年度 報告書 小学校 国語」P.68～P.75、「平成30年度 解説資料 小学校 国語」P.52～P.59

「平成30年度＜小学校＞全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」（国立教育政策研究所教育課程研究センター）より

2 授業改善例〔中学校国語〕

平成30年度全国学力・学習状況調査B問題から見られた課題

中学校 国語B 1三

【出題の趣旨】

目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことができる。

		北海道	全国	差
「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く。	正答率	14.2	13.3	+0.9
	無解答率	8.1	7.0	+1.1

授業前の教師の準備

B1三についての生徒の解答の状況を「解答類型」（平成30年度 報告書 中学校 国語）に照らして把握する。特に、以下の「解答類型」の生徒の解答の状況に着目する。

●「解答類型2」、「解答類型3」の生徒

目的に応じて、文章の内容の一部を捉えることはできているが、文章の構成や展開を踏まえ、必要かつ十分な内容を捉えることができていない。

●「解答類型99」の生徒

目的に応じて文章を読み、必要な内容を捉えることができていない。

第1時

① 学習の見通しをもつ（P. 6のワークシートを配付）。



二つの問いを示すので、それぞれの答えを文章中から見付けましょう。

② 一つめの問いを把握する。

【問いの例】動物の歯の化石を比較することでどのようなことが分かるか。

【答え】その動物の属する種やグループと、その生物の進化の過程や生息分布。

③ 問いの答えを見付けるための手掛かりになる箇所印を付けながら、各自で文章を読む。

④ 見付けた答えを書くとともに、どのようにしてその答えにたどり着いたのかを書く。

⑤ ④で書いた内容について、グループで検討する。

第1時終了後の教師の分析

第1時終了後に、ワークシートの記述内容を分析する。

授業前に把握した「解答類型2」、「解答類型3」や「解答類型99」に該当する生徒が、次の観点についてできているかどうかを見る。

● 必要かつ十分な内容を取り出している。

● 内容を取り出す際の着目点を明らかにしている。

第1時終了後に不十分だった生徒については、第2時の問いに取り組む様子を観察し、必要に応じて支援する。

第2時

⑥ 二つめの問いについて②から⑤に取り組む。

【問いの例】ネズミ類の歯の化石はどのようにして発掘するか。

【答え】・土壌や河川にたまった砂や泥などの堆積物を採取し、ふるいにかける。
・顕微鏡を使って残留物の中から歯の化石を拾い出す。

⑦ 学習を振り返る。

【一つめの問いについてのワークシートの記入例】

【一つめの問い】

動物の歯の化石を比較することでどのようなことが分かるか。

④ このことは、ネズミ類に限ったことではない。動物の歯の形態は種によって異なるため、その形態をつぶさに観察し比較することで、その動物の属する種やグループを判断することができる。歯の形態がまったく同じであれば同じ種であることが分かり、異なっているように似ていれば、同じグループに属する種であると考えられる。例えば、私たちヒトの歯の形はサルに似ている。しかし、サルの犬歯はヒトの犬歯よりも鋭く大きい。だから、サルはヒトと同じグループに属していても、異なる種であると分かる。ネズミ類の場合、発見される化石のほとんどは歯であるため、歯の形態で種を区別するという方法は特に重要である。

⑤ この知識を応用し、違う時代の同じグループ内の種を比較することで、その生物の進化の過程や生息分布を調べることができる。現存するネズミ類で説明すると、例えば、現在のオナガネズミの歯のかみ合わせ面と約三三〇〇万年前のオナガネズミの歯のそれとを比較すると、現在のオナガネズミの歯は真ん中が盛り上がり、より複雑な形になったことが分かる。……

【一つめの問いの答え】

- ・その動物の属する種やグループ
- ・その生物の進化の過程や生息分布

どのようにしてその答えにたどり着いたのか。

(1) どの段落に着目したのか。それはなぜか。

- ・4, 5段落
- ・3段落はネズミ類の歯について述べているだけだが、4, 5段落では動物の歯の化石を比較している。

(2) 答えにたどり着くまでに、(1)の他にどのような内容や言葉に着目して、どう判断したのか。

- ・「……比較することで……が分かる」というような書き方に着目した。
- ・5段落の中に「……比較すると……」とあるが、これはオナガネズミのことだけなので答えではない。

本授業アイデア例

活用のポイント！

- 本アイデア例に示した【問いの例】の他にも、複数の問いが考えられるので、必要に応じて取り上げるとよい。
- 「平成23年度【中学校】授業アイデア例」P. 3～P. 4「文章の内容を『Q&A集』の形式で紹介する。」と関連させて指導することも考えられる。

(ワークシート)

～文章を読み、必要な内容を捉えよう～

年 組 番 氏名 ()

【一つめの問い】

【二つめの問い】

- ① マンモスや恐竜などの骨を博物館で観察したことはあるだろうか。これらの動物は既に絶滅しているにもかかわらず、まるで今にもよみがえりそうな姿で生き生きと復元されている。これは、絶滅した生物を分類し、その生態や進化の過程を明らかにする古生物学という学問の研究成果の一つである。マンモスや恐竜のような大型動物の場合、数万年から数億年という時間を経ても、骨の化石が比較的よい状態で発見される。しかし、小型動物の場合、堆積物に埋没する過程で分解されて、骨はほとんど残らない。
- ② 骨が残っていないとすると、小型動物の一つであるネズミ類は何によって研究されているのだろうか。実は、ネズミ類は、歯の化石によって研究されている。歯は体の中で最も硬い組織であるため、化石として保存されやすいからである。
- ③ それでは、ネズミ類の歯の化石はどのようにして発掘するのだろうか。大型動物の場合、堆積物の中から直接化石を発掘することができる。しかし、この方法で発掘するのは、ネズミ類の歯の化石は、あまりにも小さい。そこで、次のような方法をとる。まず、土壌や河川にたまった砂や泥などの堆積物を採取し、ふるいにかける。ネズミ類の歯の化石は泥よりは大きいので、砂粒とともにふるいの上に残留する。次に、顕微鏡を使って残留物の中から歯の化石を拾い出す。この方法によって標本数が増え、どんな種類のネズミが、どの時代に生存し、どのような生態系に属していたのかを探ることが可能。このことは、ネズミ類に限ったことではない。動物の歯の形態は種によって異なるため、その形態をつぶさに観察し比較することで、その動物の属する種やグループを判断することができる。歯の形態がまったく同じであれば同じ種であることが分かり、異なっているように似ていれば、同じグループに属する種であると考えることが可能。例えば、私たちヒトの歯の形はサルに似ている。しかし、サルの犬歯はヒトの犬歯よりも鋭く大きい。だから、サルはヒトと同じグループに属していても、異なる種であると分かる。ネズミ類の場合、発見される化石のほとんどは歯であるため、歯の形態で種を区別するという方法は特に重要である。
- ⑤ この知識を応用し、違う時代の同じグループ内の種を比較することで、その生物の進化の過程や生息分布を調べることができる。現存するネズミ類で説明すると、例えば、現在のオナガネズミの歯のかみ合わせ面と約三五〇〇万年前のオナガネズミの歯のそれとを比較すると、現在のオナガネズミの歯は真ん中が盛り上がり、より複雑な形になったことが分かる。この事実、オナガネズミがより効果的に食べ物を細かく砕けるように進化したことを示している。このような形態の特徴を古い時代から新しい時代に向かって丹念に追っていくことで、時間とともに生物がどのように変化したのかを明らかにすることができる。また、違う場所から出てきた歯の化石が、同じグループに属すると決定できれば、その生物が生息していた範囲が分かる。
- ⑥ ネズミ類の歯の化石は、博物館で展示されているマンモスや恐竜の骨のようになくこよさはない。しかしながら、複雑で多様なネズミ類の歯の一つ一つは、進化というジグソーパズルの大事なピースとなるのである。



【オナガネズミ】

(木村由莉「古生物学におけるネズミ」による。)

【一つめの問いの答え】

どのようにしてその答えにたどり着いたのか。
(1) どの段落に着目したのか。それはなぜか。

(2) 答えにたどり着くまでに、(1)の他にどのような内容や言葉に着目して、どう判断したのか。

【二つめの問いの答え】

どのようにしてその答えにたどり着いたのか。
(1) どの段落に着目したのか。それはなぜか。

(2) 答えにたどり着くまでに、(1)の他にどのような内容や言葉に着目して、どう判断したのか。